

私が八島ヶ原湿原(七島八島)へ、ニッコウキスゲを見に行ったのは高校二年の時でした。姉夫婦につられて行った湿原の周りは、あたり一面に黄色のじゅうたんを敷き詰めたと言えるほど素晴らしく、咲き誇る中を歩いたことが思い浮かんできません。

三十年後に、下諏訪自然観察会の講座を受講し、草花の勉強を始め現在に至っております。最近講師の先生と一緒に、霧ヶ峰や湿原の草花の観察に行き感じたことは、昨年まで咲き誇っていた花が見られなくなったことです。不思議に思い、いろいろの方に尋ねると、食害や温暖化による環境の変化ではと聞かされました。



八島ヶ原湿原もニッコウキスゲ・ヤナギラン・マツムシソウが食害により、絶滅寸前まで追い詰められ、四年ほど前に湿原を金網柵で囲ったことにより、少しずつ増えてきているのが現状です。また、高層湿原や池も姿を変えてきているの目につきます。訪れた方は、昔のいろいろな花が咲き誇っている湿原をイメージされており、現状を見て、自

花の名前を覚えようとする人、写真に収める人、鳥の写真を撮る人と幅広く観察している姿を目にします。中には更に奥深い質問をされ、戸惑うことも数多くあり、もつと知識を身につけなければと努力する日々です。ただ残念なことは、植物の花、鳥の写真撮影のために木道から外れ、足を踏み入れた後が数多

最近、湿原を訪れる人は年々増えてきていると言えます。関西・関東方面が多く、インターネットで事前に調べて勉強をしてきています。花の名前を覚えようとする人、写真に収める人、鳥の写真を撮る人と幅広く観察している姿を目にします。中には更に奥深い質問をされ、戸惑うことも数多くあり、もつと知識を身につけなければと努力する日々です。ただ残念なことは、植物の花、鳥の写真撮影のために木道から外れ、足を踏み入れた後が数多



く見られることです。年に何回か湿原に出かけていますが、町民の皆さんを見かけることが少ないと感じています。自然環境の移り変わっていく町のシンボル八島ヶ原湿原を見てほしいと願っています。生活の中で人は環境に順応していかれますが、植物は自然環境に対応できず変化しています。高原に咲く花々に親しみを感じとり、豊かな心情を培うことが大切ではないでしょうか。

路地を歩いて

桜町 長田 悦子

私は一昨年の十一月に諏訪市大和から桜町に引っ越して来ました。

以前の住まいは諏訪湖が一望できる高台にありましたが、今度の家は静かな住宅街にあり、生活する上で何かと都合がよいのです。大和での暮らしは車無しでは買い物もままならないものでしたが、今は歩いて個人商店などに行っています。そこでお店の方と交わす日常会話は私にとって実に軽妙で楽しいものです。

私は下諏訪に来てから、歩くことが多くなりました。買い物だけでなく時には急に思い立って散歩することもあります。それは大抵、夕飯の用意にはまだ時間が少しあるといった時です。



私の場合、健康のために歩くのではなく、この町を探索する気分がわくわくしながら歩いているのです。そうしたワクワク感が最も高揚するのは、路地を歩く時でしょうか。下諏訪はかなり路地が多い所だと感じます。特に秋宮、春宮周辺に多く見受けられますが、その理由は下諏訪の歴史を辿り古地図などで調べればわかるかもしれません。

他にも好きな路地は幾つかありますが、共通して言えるのはその周辺に住む人々の温もりが感じられるということです。古くからある路地に面して建っている家には、もうごなたも住んでおられない処もあります。しかしながら、そういう家でも確かに人々の暮らしがあったという気配を感じ、どこか懐かしく愛おしくなります。

数ある路地の代表格といえば、やはり七蔵でしょうか。この道は歴史民俗資料館の裏手にあり、蔵や人家を縫うように緩やかに傾斜しながら伸びています。以前は路地の両脇に七つの蔵が建っていたのでしょうか。ここを一人で歩いていると時空を超え、遠い昔に迷い込んだ気分になってしまいます。いにしえを偲ぶのに適した路地としては、ぎん月の前から青塚古墳に向かって伸びている通りでしょう。この道の左手側には不思議なことに津島神社と稲荷神社が仲良く並んでいます。黒い鳥居と赤い鳥居がくっついて並んでいる姿はどこか微笑ましく思えます。



その一方、今現在もそこで暮らしている方の中には決して広いとは言えないスペースを上手に利用して、四季折々の草花を育てておられる方もいます。日々の暮らしの中で植物を慈しみ、野菜を育てることを喜びとして生きる、そんなやさやかな日常を垣間見る時、心がほっこりとしてきて路地歩きの楽しさを実感するのです。下諏訪は古いものと新しいものが混在する不思議な町です。歴史のある場所なのに、新しいもの、新参者を拒まない懐の大きな町、下諏訪。私は今、この町に移り住んだことを心から嬉しく、ありがたく思っています。これからも時間を見つけては路地歩きをして素晴らしい発見や出会いがあることを願っています。